

平成25年度
臨床研修のご案内

佐渡島臨床研修病院群研修管理委員会

目次

1. はじめに
2. 臨床研修プログラム
3. 研修施設
4. 研修管理委員会
5. 研修の評価
6. 修了の認定
7. 研修医の待遇
8. 研修終了後の進路
9. 募集要項

1. はじめに

佐渡島臨床研修病院群研修プログラムは、佐渡総合病院を中心に病院、診療所、保健所、老健施設、看護ステーションがネットワークを形成し、豊かな自然と能や文弥人形などの伝統芸能が残る佐渡島で全人的な医療、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目的にした臨床研修を提供する。

2. 臨床研修プログラム

佐渡総合病院を基幹型病院、真野みずほ病院、北里大学病院、新潟大学病院を協力型病院、佐渡保健所、佐渡市立両津病院、岩首診療所、赤泊診療所などを協力施設とする臨床研修病院群を構成し研修を行う。スケジュールは別紙の通りであるが、1年目のオリエンテーションを含む内科（消化器、呼吸器、循環器、腎臓、内分泌・代謝、血液、神経内科より4科目）、選択必修（外科、麻酔科、小児科、精神科より2科目）、救急（当院救急外来、及び北里大学救急救命センターにて三次救急・集中治療管理の研修）を行う。2年目は地域医療（岩首・赤泊診療所、佐渡市立両津病院）、及び選択科目を行うか、選択科目は将来専門とする診療科を中心に選択する。希望があれば新潟大学（麻酔科、放射線科、心臓血管外科）での研修も可能である。

1年目の内科、選択必修、救急の研修では上級医や指導医とともに、救急車搬送患者を主体に症状を持って受診した患者を最初の問診・処置・検査から受け持ち、入院した場合は担当医として治療・リハビリと退院まで一貫して診療にあたる。受持患者の検査だけでは十分に習得できない検査手技（超音波検査や消化管内視鏡検査など）は、別にカリキュラムを組んで集中して学べるよう配慮する。北里大学病院救急救命センターにおいて三次救急の研修も可能になった。

2年目では、地域医療として島内の病院・診療所・老健・保健所（佐渡地域振興局）でへき地診療、在宅医療、巡回診療、予防活動などの保健・医療を研修する。約10ヶ月の選択科目は将来専門とする診療科を中心に選択。希望があれば新潟大学（麻酔科、放射線科、心臓血管外科）での研修も可能とした。

2-2 研修分野

研修施設

期間

	研修分野	研修施設	期間
必修	内科	佐渡総合病院	7ヶ月
選択必修	外科	〃	(1ヶ月)
選択必修	小児科	〃	(1ヶ月)
選択必修	産婦人科	〃	(1ヶ月)
選択必修	精神科	真野みずほ病院	(1ヶ月)
選択必修	麻酔科	新潟大学病院	(1ヶ月)
必修	救急	佐渡総合病院	2ヶ月
必修	救急	北里大学病院救急救命センター	1ヶ月
必修	地域医療	佐渡総合病院関連施設	1か月

必修	地域医療	市立両津病院	1 か月
選択		佐渡総合病院・新潟大学病院など	10 か月

3. 研修施設

管理型研修病院：厚生連佐渡総合病院

病床数 354 床（一般 350 床、感染 4 床） 医師数 41 名

診療科 25 科 内科、神経内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、
整形外科、脳神経外科、小児外科、心血管外科、泌尿器科、産婦人科、
皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科、形成外科、
歯科、口腔外科、呼吸器外科、放射線治療科、リハビリテーション科

年間退院患者数：5,937 人

一日平均入院患者数：355.5 人（平均在院日数 16.6 日）

一日平均外来患者数：1,042 人

協力型研修病院：厚生連真野みずほ病院（精神科）

北里大学救急救命センター（救急）

新潟大学病院 麻酔科、放射線科、心臓血管外科（選択）

協 力 施 設：・佐渡保健所（佐渡地域振興局保健福祉部）

・佐渡市立両津病院 ・岩首診療所 ・赤泊診療所

4. 研修管理委員会

百都 健	研修管理責任者	内科指導医	病院長
鈴木 啓介	プログラム責任者	内科／救急指導医	内科部長
岡崎 実	研修管理委員長 プログラム副責任者	小児科指導医	副院長
川崎 昭一	研修管理委員	脳外科指導医／地域医療指導医	副院長
岩田 文英	研修管理委員	内科指導医	副院長
石田 道雄	研修管理委員	産婦人科指導医	副院長
佐藤 賢治	研修管理委員	外科指導医	外科部長
生沼 武男	研修管理委員	整形外科指導医	整形外科部長
渡辺 敏朗	研修管理委員		事務長
岸本 牧子	研修管理委員		看護部長
長島 清	研修管理委員	精神科指導医	真野みずほ病院長
川原隆太郎	研修管理委員		〃 事務長
石塚 修	研修管理委員	地域医療指導医	市立両津病院長
園田 裕久	研修管理委員	地域医療指導医	佐渡地域振興局部長
中山 秀英	研修管理委員	地域医療指導医	佐渡医師会長
渡辺 剛忠	研修管理委員	有職者	元佐渡市教育委員会教育長

4-2 研修スケジュールの例

1年次	OR 1週間	内科 7ヶ月	選択必修(2科目) 2ヶ月	救急/3ヶ月 (当院/2ヶ月、北里大学1ヶ月)
2年次	地域医療/2ヶ月 (市立病院・診療所)		選択(1~3科目を選択) 10ヶ月	

OR：オリエンテーション

5. 研修の評価

研修の評価は、研修医自身と指導医がそれぞれ評価を行い、各科目が終了した時点で研修管理委員会に提出する。研修管理委員会はこの評価の記録を保管するとともに、結果を研修医並びに指導医へフィードバックし、未達成の項目があれば更に研修が受けられるよう支援する。基本（内科、選択必修、救急）並びに必修（地域医療）科目が終了した時点で未達成の研修項目がある場合には、選択期間の一部で該当の研修を行う。

6. 研修修了の認定

研修管理委員会は基本科目、必修科目が終了した時点でそれまでの研修評価をまとめ、到達度を判定する。基本、必修科目に未達成の項目がある場合は選択科目の全部または一部を振り替えて、該当科目の研修を行う。

研修管理委員会は全ての評価を総合し、研修目標が達成したと確認した場合その旨病院長に答申する。病院長は研修管理委員会の答申に基づいて研修修了を認定し、臨床研修修了証書を交付する。

7. 研修医の処遇

身分	:常勤
勤務時間	:8:30～17:00
休暇	:休日 土・日・祝祭日 :有給休暇 年間 13 日間 :年末年始休暇あり :その他特別休日3日あり
日当直	:2年次のみ月平均3回(宿直2回、日直1回) :1年次は午後 10 時までの副直
給与	:1年次 610,000 円 2年次 670,000 円 (諸手当、ボーナスを含む)
宿日直手当	:あり(2回までを基本とし、 超えた場合は1回につき 10,000 円加算)
宿舎	:あり
研修医室	:あり
社会保険	:あり
健康保険	:新潟県厚生農業団体健康保険
年金	:厚生年金
雇用保険	:あり
医師賠償責任保険	:病院において加入 個人加入は任意
健康管理	:年2回の健康診断
外部の研究活動	:学会・研究会への参加 可 :学会研究会への参加費用支給 あり(年間 90,000 円以内)
赴任旅費	:支給あり

8. 研修終了後の進路

研修後の進路については、病院長はじめ研修管理委員会は誠意を持って相談に応じる。

9. 平成25年度研修医募集要項

- 1) 定員 : 3名
2) 募集方法 : 公募
3) マッチング : 参加
4) 募集資格 : 既に医師国家試験に合格した者、および平成22年3月の医師国家試験受験予定者
5) 申込み締切日 : 平成24年8月17日まで (但し、9月中旬まで調整可能)
6) 選考方法 : 面接
7) 面接会場 : 佐渡総合病院
8) 面接日 : 平成24年8月23日、24日
(但し、受験希望者により9月中旬まで調整可能)
9) 応募書類 : 研修申込書、健康診断書、履歴書、卒業(見込み)証明書(研修申込書以外は後日可)
10) 書類請求先 : 佐渡総合病院総務課 後藤 正利
〒952-1209 新潟県佐渡市千種161番地
TEL : 0259 (63) 3121 FAX : 0259 (63) 6349
e-mail : soumu@sado-hp.jp

11) 病院見学／実習

何時でも受け付けています。下記に気軽にお問い合わせ下さい。

研修管理責任者 百都 健

総務課長 後藤 正利